お酒は20歳になってから

アルコールは、20歳未満の人のこころやからだの発達、健康に大きな影響をおよぼします。

１．脳への影響

アルコールは、発育途上の脳細胞に大きなダメージを与え、学習能力や集中力、記憶力、判断力、意欲などの低下につながります。

２．からだへの影響

アルコールを分解する働きも未完成なため、短期間で肝臓をはじめ、さまざまな臓器に障がいを起こす危険性が高まります。

３．性機能への影響

アルコールは、性ホルモンのバランスを崩します。男性は、生殖器の発達を妨げられ、女性の場合は、生理不順や無月経になることがあります。

４．依存症になりやすい

大人よりも短期間でアルコール依存症を発症する可能性が高まります。

また、飲み始めが早ければ早いほど、将来アルコール依存症になる確率が高くなると言われています。

５．20歳未満の人の飲酒は、法律で禁止されています。

民法改正により、成年年齢が18歳に引き下げられましたが、お酒を飲んでもいいのは、20歳以上です。

また、20歳未満の人にお酒を勧めることも違法です。

発行：大阪府こころの健康総合センター